



# 活動報告

関東蒲生会幹事長 山下 憲男

1. 関東始良市ふるさと会設立総会・懇親会(蒲生会出席者60名参加)  
平成26年10月12日(日) 13:00～ 東海大学校友会館 霞が関ビル35階



2. 第18回渋谷・鹿児島おはら祭り  
平成27年5月17日 おはら祭り 渋谷道玄坂・文化通り 踊りパレード 13:00～16:00  
合同懇親会 三州倶楽部(蒲生会20名参加) 16:30～
3. 第一回総会準備(平成27年6月27日)  
総会開催のための企画、準備日程の確認、桜基金の継続、関東蒲生会会員名簿の発行ならびにこれらの費用にあてる関東蒲生会運営寄付金の募集、かわら版の発行などの決定を行う。
4. 第二回総会準備会(平成27年8月22日) 総会案内の準備と総会・懇親会案内状の発送  
同封資料:案内状、かわら版、寄付金振込用紙、返信用ハガキなど約450通の案内発送作業。  
以降予定 第三回総会準備会 9月26日(土) 10:00～12:00 三州倶楽部
5. 関東蒲生会 27年度総会懇親会10月17日(土) 受付12:30～13:00 総会・懇親会13:00～16:30 三州倶楽部

## <関東蒲生会運営寄付金のお願い>

ご承知のように関東蒲生会は年一回の総会・懇親会で会員相互の親睦と町との交流を主な役割としてまいりました。引き続き今後の運営も総会での決議に基づき続けてまいる所存でございます。  
一方、今回の総会・懇親会のご案内も含めた、通信費、印刷費、会議室使用料など1年間の維持運営を総会参加者の会費の中から捻出し、不足分は有志の寄付と幹事一同のボランティアで賄っているのが実情でございます。引き続き、関東蒲生会の会員の方々から広く運営寄付金の募金を募っております。関東蒲生会の有志の方々から寄付を賜りますようお願い申し上げます。(振込用紙を同封してあります)

## 始良市・市政功労者表彰受賞 報告

関東蒲生会会員の皆様、お変わりなくご健勝のことと拝察いたしております。

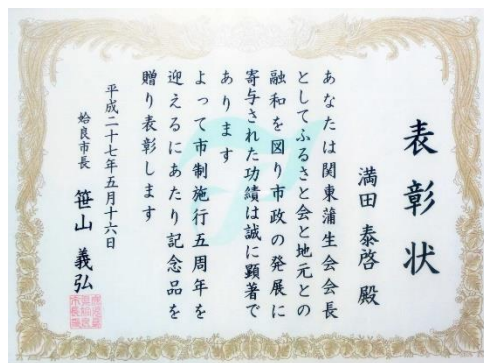
この度5月16日の始良市市政5周年記念式典への参加要請を受けて関東蒲生会を代表して参列いたしました。席上、図らずも右に紹介しました「市政功労者表彰」なるものを受賞しましたので報告します。

本表彰は私が会長として勤めました関東蒲生会の10年間の活動が評価されての結果であり、関東蒲生会だけが表彰されたものです。

よって本表彰は会員の皆様のご支援ご協力により頂いたもので、ここに感謝の意を表し、報告させていただきます。

また、これを機会に関東蒲生会が小倉会長のもと益々発展いたしますよう期待いたしております。

関東蒲生会名誉会長 満田泰啓



# 第18回渋谷・鹿児島おはら祭り(2015年5月17日)

関東蒲生会副会長 久富木 文子

3回目の参加となる今年のおはら祭りには、関東始良市おどり連(始良、加治木、蒲生)から30名、故郷始良市から笹山始良市長始め30名が参加し、総勢60名の「あいらびゅー踊り連」として「優勝をめざしてチェスト！」の掛け声と共にスクラムを組みました。

文化村通りBゾーンから13:20踊りスタート、おはら節、渋谷音頭の審査対象曲を踊り、渋谷109の本部席前で踊り、道玄坂の登りにかかり、踊りながら坂道を登る事の大変さを、今年はふくらはぎが攣るほど味わった2時間半の踊りパレードでした。



今年は参加連数65、参加人数2500名を超える賑わいで、当日のプログラムの裏面に英文の案内も出たように、世界中の旅行者に一番人気のSHIBUYA ハチ公、109前のスクランブル交差点を通行止めにして行われるビッグイベントでした。

多少気持ちのゆとりもあり、ドイツ、オランダ、オーストラリア、イギリス等の若者達が飛び入り出演の屋久島舞扇流や、18回連続参加の渋谷区民謡舞踊連盟など、他の参加連との国際交流ができた事も良い経験となりました。

踊りパレードに参加の皆様、給水や交通整理のボランティアとして参加の皆様、上天気の良い沿道で応援してくださった皆様、受賞は逃しましたが夜の部の懇親会を大いに盛り上げて頂いた皆様、沢山の皆さま方のご協力、ご声援 あいごともさげました！

来年の渋谷・鹿児島おはら祭りは2016年5月15日(日)に開催予定ですが、その前に天文館おはら祭りが今年の11月3日(火)文化の日に鹿児島で開催されます。ご一緒に天文館で踊りもんそ！！



これは昨年の天文館おはら祭りです。  
関東始良市おどり連長 久富木 文子



# 六月灯に思う

関東蒲生会幹事 前田 明美

蒲生にいたおてんば盛りの幼い頃、7月が近づくと、もぞもぞと落ち着かなくなる。それは六月灯のシーズン到来！7月にあるのに何で「ろっがっどう」かね？何で「ろっがっどう」ち言うとかね？などと小さな疑問も持ちつつ心待ちにしていたものだった。

六月灯は、旧薩摩藩領地域で行われる夏の風物詩で、その由来は諸説あるようだ。古来日本では仏像をもって神体とする神仏習合の傾向にあり、寺院で始まった灯籠奉納が神社に広がった。忠久の供養に家臣が灯籠に灯をともしたことが、庶民に広まったとも言われ、また牛馬の疫病や田の害虫駆除が民間の行事に変化したものとの説もある。



そういえば幼き頃、部落の祠(道祖神?)の扉が、この時季開かれ、その石段には灯籠が灯されていた記憶がある。それが庶民に広まったとか、さらに人馬の息災や害虫の根絶を祈ってされたとか、それが地域ごとの「ろっがっどう」だったのだろう。

その頃の私は、開かれた祠の中をこわごわと覗きこみ、びんたをちよろっと下げ、袋入りのかき氷をもらってニンマリとする、一年に一度のお楽しみという感じで、「ろっがっどう」の意味などにも考えてもいなかった。それからもう一つ、19代光久の時代、観音堂の再建をした折、沿道を灯籠の火で道灯りしたと言われこの日が6月16日とも言われている。



この時代もちろん電気も街灯も無いのだから、ある意味幻想的であっただろう。もしかしたらそれが、蒲生の「ろっがっどう」にも通じているのかもしれない。「ろっがっどう」はいわゆる盆踊りとか縁日とはどこか違うように思う。

とはいえ、おてんば盛りの頃には、あちこちの「ろっがっどう(ろっがっどう荒し)」によく行った。中でも蒲生はつまん様のは、夏を飾る一大イベントだったので、もぞもぞ度は最高潮だった。

その頃は灯籠奉納に思いを巡らせることもなく(ぼっけもん)蒲生市を思わせるような露店の賑わいに、ただただ舞い上がり、風船ヨーヨーを手始めに、しんこだんごやらイカ焼きやら握りしめ、またまたニンマリとしていた、大好きで、待ち遠しい夜でした。

灯籠がずんばい飾ってあったな〜と今更ながら思い出す。



おてんば盛りを過ぎ、おばさん盛りとなった今、もう何十年「ろっがっどう」に触れてないことだろう。折あらば、灯籠愛で(めで)しんこだんごに焼酎で7月の一大イベントに触れたいと思う。

おばさん盛りになった今も、7月になると、もぞもぞとしてくる。



ようこそ蒲生会ドットコムへ

関東蒲生会ホームページ  
kamoukai.com

関東蒲生会のホームページをご覧ください。

全国の各地にお住まいの蒲生出身者、蒲生に縁の方々も自由に閲覧・投稿できます。このホームページには総会・懇親会時の写真や関東始良市ふるさと会も色々と投稿されております。

ホームページ

<http://www.kamoukai.com>

メールアドレス

[office@kamoukai.com](mailto:office@kamoukai.com)